



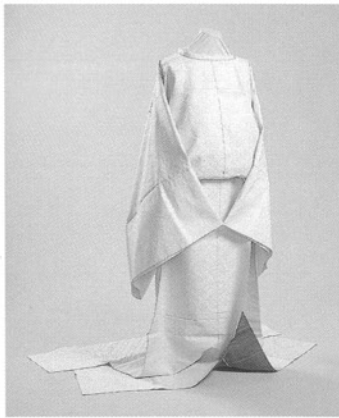
# お殿さまの衣紋(えもん)

●会場 1階松平家史料展示室  
●会期 平成17年7月16日(土)～9月28日(水)

「<sup>えもん</sup>衣紋」とは<sup>じゅうにひとえ</sup>十二単や<sup>そくたい</sup>束帯と呼ばれるような宮廷の華麗な衣装のことを言います。福井藩主を歴代務めた松平の殿様も武士ではありますが朝廷から位階を授かっていますので宮廷人の衣装を着ることがありました。衣紋を着る方法を衣紋道といますが、これには宮廷での身分や儀式、季節などによって細かに規定がありました。特に衣装の色や紋・模様は位階によって厳密に規定されています。またこれらの規定は時代によっても異なっています。越前松平家の殿様の衣紋として今日に残っていますのは、<sup>そくたい</sup>束帯という最も正式な装束をはじめ、<sup>ひたれ</sup>武士の装束である直垂、そして公家の日常服である<sup>かりぎぬ</sup>狩衣です。こうした衣装には、<sup>くつ</sup>沓や<sup>しゃく</sup>扇、<sup>しやく</sup>笏など決められた持ち具がありますが、その多くも今日伝わっています。越前松平家の歴代の殿様も位階相当の装束を身に付けました。その衣紋の奥深さと華麗さを堪能してください。

## 束帯(そくたい)

最も正式な装束です。洋服にたとえるとモーニングかフロックといった礼服に当たります。幕府においても最上の礼服で、<sup>せんげ</sup>將軍宣下や<sup>ごい</sup>將軍家歴代の百年以上の法会参拝のときに、<sup>ほう</sup>大名や五位以上の役人が着用しました。袍という上着、<sup>きょうえのかま</sup>長く引いた裾、<sup>せきたい</sup>表袴を着け、<sup>いかん</sup>石帯とよばれる石で飾った帯で止めるなどの特徴があります。武官や中務省の役人、<sup>は</sup>天皇の許可を得た参議以上の公家は<sup>たくら</sup>剣を佩きました。衣紋道の流派には<sup>やましな</sup>高倉流と山科流が知られますが越前松平家は高倉流を採用しています。束帯を簡略化したものに<sup>いかん</sup>衣冠があります。衣冠は宮中に参内する一般的な装束で、今日では神職の正服として祭礼などでみることが出来ます。なお俗にいう「衣冠束帯」というのは「衣冠」や「束帯」という意味で、そのような衣紋の着け方があるのではありません。

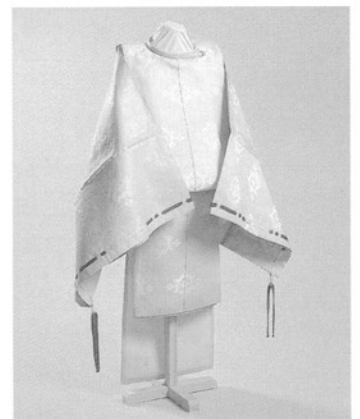


●天賜 <sup>しろごあおいもんふゆのおんひきのうし</sup>白地小葵文冬御引直衣

※直衣(のうし)  
上級公家の日常服です。外見上は衣冠とほとんど変わりませんが衣冠のように正式な袍を着けるのではありません。冠ではなく<sup>えぼし</sup>烏帽子を被るのが普通ですが、冠を被る場合もありました。直衣には、直衣の他に皇族が着用する小直衣や<sup>さんだい</sup>天皇だけが着けられた御引直衣といった種類があります。なお直衣は江戸幕府において用いられたことはなく、松平家に伝来している直衣は天皇からの拝領品のみです。

## 狩衣(かりぎぬ)

装束の中でも簡単で運動性の高いものです。その名の通りもとは野外で狩猟を楽しむ為のスポーツウエアでした。この一般公家の日常服であった狩衣も次第に公服として認められるようになりました。江戸幕府で、<sup>じゆしいのげ</sup>従四位下の大名が着けました。この場合袴は浅黄色を用いています。江戸城での年始登城時、將軍家歴代の廟所参拝でも従四位下以上の大名が着用しました。越前松平家の歴代は普通家柄として従四位下少将に任じられていましたから、狩衣が通常の礼服でした。なお、頭には<sup>さんみ</sup>三位以上が<sup>むらさきお</sup>紫紐の烏帽子を被りましたが、<sup>かざおりえぼし</sup>従四位下以上では、風折烏帽子を用いました。



●天賜 <sup>きいろちはなびしきっこうもんおんかりぎぬ</sup>黄地花菱亀甲文御狩衣

## 直垂 (ひたたれ)

直垂は、<sup>たりくび</sup>垂領というVネックの衣服で、古代は庶民の衣装でした。しかし、平安後期から活動的なところが重宝されて武士が愛用し、鎌倉時代には幕府の普通の武士が着る通常服となり、室町時代には礼服にまで昇格しました。江戸時代でも武士の礼装で、袴は長袴を用いています。江戸幕府では、御三家、御三卿、<sup>かもん</sup>家門(越前・会津)という將軍家の親戚と加賀前田家は無地の<sup>すかしせいごう</sup>透精好の直垂を用い、その他の国持大名は、<sup>くにもち</sup>無地の精好を着けました。直垂の色は家によって異なります。また、頭には<sup>ひきたてえぼし</sup>引立烏帽子を被りました。現在では、雅楽の樂師や大相撲の行司の装束として残っています。

### 「お殿様の衣紋」列品目録

名	称	員数	備考
束帯(そくたい)			
1	<sup>くろちからくさもんかたちあやほうえきのほう</sup> 黒地唐草文固地綾縫腋袍	1領	越葵文庫
2	<sup>しげしもんかたちあやひとえ</sup> 横繁菱文固地綾単	1領	堂上冬の料 越葵文庫
3	<sup>かたひら</sup> 大帷	1領	越葵文庫
4	<sup>じゅばん</sup> 襦袢	1領	越葵文庫
5	<sup>しろへいけ んむもんきよ</sup> 白平絹無文裾	1領	堂上夏の料 越葵文庫
6	<sup>ふたあいこめおりむもんきよ</sup> 二藍穀織無文裾	1領	堂上冬の料 越葵文庫
7	表袴	1領	堂上冬の料 越葵文庫
8	<sup>ひらお</sup> 葵紋付切平緒	1本	越葵文庫
9	<sup>しげもんすいせい</sup> 繁文垂纓御冠	1頭	越葵文庫
10	<sup>しゃく</sup> 木笏	1枚	越葵文庫
11	<sup>おきぶみ きょう</sup> 葵紋置文二十三橋松扇	1握	越葵文庫
12	<sup>こちょうほたん かのかくつ</sup> 胡蝶牡丹模様靴沓	1足	越葵文庫
※直衣(のうし)			
13	天賜 白地小葵文御引直衣	1領	明治5年8月25日 松平春嶽拝領 福井市春嶽公記念文庫
狩衣(かりぎぬ)			
14	<sup>むかいつるまる</sup> 白地向鶴丸紋狩衣	1領	堂上冬の料 越葵文庫
15	<sup>くじゃく</sup> 黄地孔雀紋狩衣	1領	堂上冬の料 越葵文庫
16	<sup>ぶどう ふらげんもんしゃ</sup> 青葡萄色布羅頭紋紗狩衣	1領	越葵文庫
17	<sup>きつこうもん</sup> 黄地花菱亀甲紋御狩衣	1領	松平春嶽が明治天皇より 拝領 春嶽公記念文庫
18	<sup>あさくつ</sup> 浅沓	1足	越葵文庫
19	<sup>たて</sup> 立烏帽子	1頭	越葵文庫
20	<sup>かざおり</sup> 風折烏帽子	1頭	越葵文庫
直垂(ひたたれ)			
21	<sup>せいごう</sup> 青地精好直垂	1領	堂上冬の料 越葵文庫
22	<sup>もえぎぢしや</sup> 萌黄地紗直垂	1領	堂上夏の料 越葵文庫
23	<sup>もえぎいろぢ</sup> 薄萌黄地紗直垂	1領	堂上夏の料 越葵文庫
24	<sup>はくぎさんごう</sup> 松平春嶽筆『幕儀参考』	1冊	福井市春嶽公記念文庫

#### ◎見どころ講座 「お殿さまの衣紋」<sup>えもん</sup>

日時：8/20(土)午後2時～  
場所：講堂(2階)  
担当：角鹿尚計(当館学芸員)  
定員：60人 当日受付

展示解説シート No.13

福井市立郷土歴史博物館  
〒910-0004 福井市宝永3-12-1  
電話(0776)21-0489  
FAX(0776)21-1489  
企画 角鹿尚計